

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

『こんにちは赤ちゃん』よりも、へへ恨みっこなくして別れましようね』で始まる、『二人でお酒を』が好きでした。それまで、女性が歌う別れ歌は、男への恨み辛み、涙と未練の言葉が多かったように思いますが、この歌は違った。

143 歌手 梓みちよさん



29日に、マネージャーが仕事の打ち合わせで自宅に行ったものの、インターホンを押しても反応なく、合鍵で部屋に入るとベッドの上で冷たくなっていた梓さんを発見しました。死因は心不全とのこと。

梓さんは、一人暮らしでした。最近はずが悪くなっておは、今後ますます増えていきます。国勢調査のデータによれば、わが国の単独世帯は、1842万世帯です。このうち、65歳以上は593万世帯にのぼります（平成27年調査）。

ストレス少ない一人暮らしを謳歌

また、15年後の2035年には、高齢男性の16%、高齢女性の23%が一人暮らしになるという予測も。つまり孤独死は、まもなく「日本人の普通の死に方」となってくるはずだ。

私は、自宅での孤独死は決して悪い死に方ではないと考えます。孫の機嫌を取りながら息子、娘夫婦と暮らすよりも、ストレスがなくて自由でいいと、あえて一人暮らしを選択する高齢の患者さんもたくさんおられます。

でも、できれば早めに見つけてほしい。たとえ人間関係が希薄でも、在宅医療にかかれれば、訪問看護師や在宅医との関係が生まれます。合鍵をお預かりしているケースもたくさんあります。

梓さんの場合は、まだお若かったのですが、在宅医療とは縁がなかったでしょうが、ともあれ早く見つけたようで良かったです。一人暮らしを謳歌（おつか）していたようにお見受けします。

へへそれでもたまに淋しくなったら、今度スナックに行ったから、『二人でお酒を』を唄います。